

マイクロ波論文（大学発）特集の発行にあたって



マイクロ波論文（大学発）特集編集委員会  
委員長 高木 直

近年の携帯電話に代表されるワイヤレス情報通信機器の飛躍的普及に伴い、マイクロ波・ミリ波帯におけるデバイス、回路、システム等の技術は急速に進歩し続けており、また、将来に向けてより高度な技術が求められている。こうした要求に対して、大学等の教育研究機関による基礎的研究、産業界との共同研究の推進は、技術的貢献のみならず若手技術者の育成などの面でも、この分野の発展に大きく寄与することはいうまでもない。

本特集は、大学や高等専門学校等の教育機関での学生・技術者の育成、及び、マイクロ波・ミリ波技術の基礎研究から応用研究にわたる優れた研究成果の発掘と、それらの成果を産業界をはじめとする幅広い分野に紹介することを目的に、2004年から始められ、今年で9年目を迎える。

この数年間に、米国発のリーマンショック、ヨーロッパでのユーロ問題、日本においては東日本大震災、それに続く原発問題など、世界中で実に様々な混迷や危機が起こってきた。現在、我々は、まさにそれを乗り越えて、未来につなげていかなければならない時代を生きている。

そこで重要なことは、人材であり、また、技術力である。本特集「マイクロ波論文（大学発）」が、産官学による日本発の技術の発展及び人材の育成に貢献するものとして、その一助になることを願っている。

マイクロ波関連学会活動の中で、近年、MWE（Microwave Workshop and Exhibition）における大学展示がかなり定着しているように思われる。本特集の企画・推進にあたり、今回は特に、MWEにおける大学展示ブースを廻り本特集の広報活動を行った。

特集の対象分野は、各種回路、アンテナ、通信システム、シミュレーション技術、測定評価技術などマイクロ波・ミリ波技術全般とした。国内の多数の教育機関から16編（うち論文14編、ショートノート2編）の投稿があった。丁寧な査読を行い、論文、ショートノート合わせた採択率は50%であった。

本特集では、招待論文2編をお願いした。筆者らのこれまでの研究活動を踏まえた、新しいコンセプト、未来への新たな提言をして頂き、大変興味深い内容である。

最後に、本特集の刊行にあたり、貴重な研究成果を投稿して頂いた方々、厳しい日程の中で丁寧に査読して頂いた方々、企画及び取りまとめに御尽力くださった編集委員、並びに学会事務局の方々に心よりお礼申し上げます。

高木 直なかま ながし（正員：フェロー） 1973東工大・理・物理卒、同年三菱電機（株）入社、同社光・マイクロ波回路技術部部長など歴任、2005東北大学教授、2010同客員教授、工博。1990 R&D 100 Award by R&D Magazine、1997第45回オーム技術賞受賞。

マイクロ波論文（大学発）特集編集委員会

委員長	高木 直
幹事	川上 憲司
委員	石崎 俊雄・伊東 健治・内田 浩光・加屋野 博幸
	河合 正・佐藤 圭・沢田 浩和・平塚 敏朗
	山口 陽